

續談海

至自明年和二年

卅四之六

庫	文	閣	內
一五〇函	三	三四五	和
一六架	一冊	四一號	書
			類

二十

內閣文庫	
番號	和 34541
冊數	31 ( 12 )
函號	150 94

内閣文庫

共卅一

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



續淡海

卷之拾四ノ六

續漢海卷之三

卷之三

續漢海卷之三 後記

明初二乙酉年

正月廿九日加功名宛与下  
正朔元松平國體  
外種冬後也小納戶既元白須甲斐与伊後志也

白宛与下

二月十九日河川德之節殿之技光景

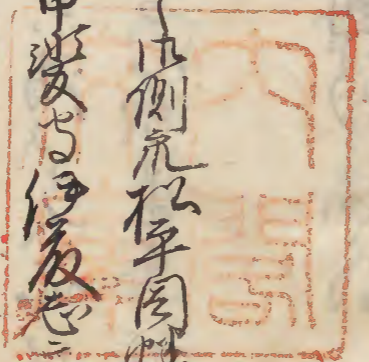
改池川 右左衛門督治休伊賀元吉白河次

三月廿七日紀伊中納言宗町与折云河上六景

同日与於瑞与等

有章院殿与下河上志也法津与下

三月 漢宗志与宛



- 一 二月廿六日西御奏事平氣等共同日登城
- 一 二月廿九日河津地氣沙汰あり
- 一 四月十六日河津大風あり
- 一 四月十七日晴天東照宮一百六十回沙汰日光山沙汰あり
- 一 四月十九日紀伊中將重倫御家督沙汰常陸
- 一 四月十九日此日谷新金浦小暮彦組是村平年  
中仁の意淺深出り由少く法人系清支死  
妻亦平河原が所支死等あり
- 一 四月廿二日公方権河刀之次國河  
系清人成あり

- 一 法皇様へ歌書一冊 右紀伊中將之殿へ  
送物中將殿へ
- 一 六月朔日普賢院門前祝井門前日光寺  
へ公家殿へ人登城
- 一 六月三日公家元沙汰終り

急之番ニ  
 乞松 今剛 大丈  
 篠 今剛 大丈  
 山口 親母 大丈  
 松平 慶定 大丈  
 祝之 二十師  
 八樓

一日四ノ内廷音

一日七日二度目内廷之門流方小食意

為之番更修名

加茂定重修名

六右衛門三節名

三多修名

内笛

公孫修名

急須須呂門

仁左衛門

九度合万俣

九九節

小八節

粟田口

河大吏

芭蕉祝久右衛門

三大節

三多修名

法七久大節

九九節

三多修名

祝云修名

平修名

三三節

三多修名

一月九日沙白書院小和の管絃

平調調子

萬歲樂 大常樂急吹二返致天樂吹

合歡鹽吹二返慶度

音頭

笙下竹也 篳篥甲吹也 笛豊伊賀守

沙樂

笙上大常樂 篳篥葉安倍雅吹笛過書卷

大常樂

笙 司右府叙輔平

之吹持也吹



母衣ノ入吏

茂右ノ

新九席

後三席

道成ノ式部

源七席

三席名

后三席

同

源大吏

祝云又兼茂十席

俊外

茂三席

。江戸町人共献之少福十部鮮鯛十枚

散羊由酒ら成と福

伊先代と伊七福

法全成りし鯛

伊子んやう成り鯛

迎年ありし福

伊屋敷れし福

武家と惣昌小鯛

合辰りし福

山交と伊成福

伊屋敷れし福

伊法成りし福

伊屋敷れし福

河よりし福

市並悲此存知成福

此よりし福

伊屋敷れし福

常し福

伊屋敷れし福

明和二年四月

一 六月十五日午樂 上鏡 月比禮云々

右方

振洋

林乃嘉尉

廣統

比之

多雅平物 忠克

東條大和 寛敷

胡蝶

多右左衛門 忠林

多右左衛門 大任

昌真

昌清

光佐  
胡世樂

忠亮  
忠毅

廣統

林平  
久隆  
廣楯

勅孟

甚大  
寬首

龍子

甚雅  
昌春

柏梓

多德  
忠卿  
廣統

久隆  
久隆

八仙

忠亮  
忠毅

久隆  
廣楯

納賴利

廣統  
廣楯

退出  
長慶子

笙

音氏

廣恭  
廣統  
廣楯

多日  
忠華  
廣楯

林之河  
廣章  
廣楯

筆葉

音氏

廣里  
廣陰  
季亮

東條  
廣村  
廣連  
季政

多和  
忠宣  
廣備  
廣安

笛

多上  
忠玄  
大冬

昌亮  
昌盛

多持  
久長  
昌家



東後在會東府 兼伎 山并筑分 昌繼 昌通

三教

大教

証教

東後之水心 李晒

昌信

昌富

石方

振祥

則安

笑殿

友之陽也

友能

寬首

芝丹波也

苜宗

則宗

迦陵頻

實之也

好近

芝岩子代

友佳

苜廣

散平

則安

太平樂

則宗

苜宗

升疎樂

則宗

苜宗

春庭苑

友能

苜宗

陵五

則宗

退步 長慶子

筭

豐信後也

敬秋

友永

忠信

順秋

筆策

多上信康 忠致 あ信雅 季康 信甲 近寿 安信 季之

笛

豊伊 俣秋 山井 京史 好苗 京就

鞞鞞

則長

大鞞

首故

心鞞

时叙

一 為商口月於日光山

東照宮百子回沙忘 勅令 沙法津卷而

乙卿

為司在太長輔平云 其六  
廣橋大納言輔忠云 廿二  
姊小路大納言文白 廿六  
北法持大納言季晴云 廿七  
万里小路大納言韶房云 三十一  
平松中納言时行云 三十二  
口过中納言公亨云 三十三  
滋中井中納言公繁云 三十四  
風早宰相公雄 三十五  
樋口少宰相基康 三十六

園池苑宰右房季  
敬上人

正親町中將公切  
清水谷中將公貞  
正親町三條中將實同  
院劫由次官榮長  
筑尾中將隆建  
後井右京後大夫兼能  
三宮戸中勢大輔光村  
千種中將有政  
園中將 基村

梅園中將城季  
柳系左少弁光房  
池屬兵部少輔定治  
橋井右馬次兼文  
瑞小路差次苑人賴尚  
小小路新苑人俊興  
着光門跡

青蓮院宮尊真法親王  
院井宮常仁法親王  
院時奉幣侵  
日次官  
風早宰相  
梅園中將

十八日

堂童子

左

藤原公純

正親町中將

女院

清水谷中將

親王

正親町中將

准后

鸛尾中將

樂以率

子孫中將

園中將

後井右系

梅園中將

右

執綱

池屬共部少輔  
後井右馬氏

執蓋

院幼氣由次官  
三宅元伊勢守

錦小路

十九日

堂童子

右

右

院幼氣由次官  
後井右馬氏



雅乐少人臣 雅乐少元小冲之仙  
 洋心官人臣 洋心少元若京正和  
 式部官人山台 式部少元安信显明  
 之友少人少元 之友少元伴重成  
 月少元 之友少元依内成  
 沙翁立池 若狭守少元新弘  
 月山翁 刑部大丞元光氏  
 月栗津 大藏大尉中京清胤  
 月山科 和泉守元正中  
 史生山科 淡路守元春昌  
 左官掌少元 大炊大元元氏富

右官掌少元 内通少元元氏章  
 告使二宅 中務大进宗景借行  
 宣命五宗 建礼少元宗景行春  
 官符副使 大藏少元宗景行春  
 大藏省播川 近卫少元弘光  
 左官掌播川 左侍少元石山洗  
 右官掌大内 右马大元源友成  
 之水司播川 之水依元井信益  
 拂部寮播川 拂部佐元若京利平

使部 云神部 加茂 方藏  
 日 川口 加茂  
 日 駕 丁 了 小細 夜井 知災  
 日 大石 夜井 定資  
 日 大松 夜井 滿康  
 日 岩井 夜井 正常  
 日 神田 夜井 宗行  
 日 威儀 夜井 宗宣  
 日 源 夜井 護祇  
 日 寺家 夜井 幸秀  
 日 兼 夜井 善乳

皇書寮 田村 皇書大允 夜京 廣教  
 日 皇書少允 夜京 祐恭  
 任人 小野 菅澄  
 日 依 夜井 富茂  
 日 小藤 夜井 福徳  
 日 源 夜井 正也  
 日 皇書 夜井 正之  
 日 皇書 夜井 正之  
 日 皇書 夜井 正之  
 日 皇書 夜井 正之  
 日 皇書 夜井 正之  
 日 皇書 夜井 正之

總掌 永后坊 実盈  
澄丸 藤部 久治  
日 加納 長治  
所守 国田 平玄博  
日 新村 玄在博  
大佛師 玄人  
結所 玄人  
樂人 只指 玄人  
菩薩 指 玄人

惣奉行  
松平古近如監

若年寄

松平孫津守

土岐英海守

酒井龍澤守

筒井大和守

小畑日向守

夏目辰河守



時後公御所

合之放

日 日 日

比目付

松平左近将

日

新庄藏部

日

松平總兵

比掃方出納戸頭

柴田右之将

比勘定出納

上野中源大將

比勘定出納

依久間白右衛

日

大原左四将

日

松平理右衛門

真水右衛門

上村政次将

表出右衛門

黒 友之助

日

岩田孫四将

日

熊澤善次将

日

長谷部右藏

日

丹中十将

日

市川長次将

日

三木留右将

日

土山惣次将

日

比掃方出納

日

比掃方出納

日

比掃方出納

日

比掃方出納

日

上野平三将

合之放

合之放

日

日

日

日

日

日

日

合之放

合之投

日

合之投

日

日

日

拂方宿

毛呂人

河井

織田

日

源

日

内方

日

北田

日

渡部

蓮

神田

日

出動

伊奈

日

横澤

日

小出

松平

日

田中

日

福田

日

池本

日

前田

日光

日光山

日光山

日光山

日光山

寺蓮院

山門院

寺子月

太大臣殿

梶井

山門院

白平山門院六白山門院玄庫院

代り 堀 大和守

九鬼長門守

松平玄初大補

日光山門院

秋月山城守

白平山門院

清津淡路守

日光山門院

山城左京亮

白平山門院

佐竹之波守

山門院

山門院

御代

井伊掃部頭

若尾孫右衛門

酒井備前守

長坂山門院酒井淡理大吏

新居山門院大久保作左衛門

山守山門院小笠原飛騨守

竹下山門院松平對馬守

山守山門院本多豊後守

山守山門院保科成安守

山守山門院

代り

保科成安守

山門院

時後又再續

時後亦再續

時後亦再續

今之政時後之

時後亦再續

今之政時後之

時後亦再續

多如衆

由之播戸守

島山飛澤守

前田出守

中興崇性

松平若校守

土倉丹後守

吉田駿河守

水谷出守

河部遠江守

伊東山城守

松平太左衛門

酒井對馬守

世流政

大瀧雲出守

小十人 野々山洋右衛門

小十人 荒井十太夫

多合醫師

園本玄浪

丸山昌貞

林玄伯

小十人 与政

小友新右衛門

小十人 綱十人

依久間伊十郎

杉山大物

治六枚

小十人廻

依田 惣七

宗依 清三郎

山本 長十郎

本間 伊右衛門

建部 平九郎

大井 平十郎

高林 孫八郎

由卷 権次郎

建部 山城守

石原 田次郎

小川 亮 内

二見 幸 内

月日 月日 月日 月日 月日

時辰二の戌

沼指 枚

川流目付

秋山 豊六郎

中川 忠次郎

重井 乃右衛門

平尾 平六郎

蓮澤 院 殿 内

青木 新七郎

淡野 友藏

市巻 権 内

竹内 乃右衛門

小野 安右衛門

松井 定右衛門

南条 敏右衛門

合人 内

治六枚

日

合人 内

合人 内

今之そと

可後二羽哉

八月四日 初普并云家元也

治少百叔綿百紀

日

表坊之

長之

中目付

此後

其目友也

真元

倉右衛門

白井友右衛門

新白書院

廣橋大納言

姉小路大納言

日光少法云付治少叔綿百紀

治少叔可後

治少叔

治少叔

治少叔

將法橋大納言

万里小路大納言

平松中納言

口辻中納言

流井中納言

凡早 幸右

樋口 幸右

屋池 幸右

正親町中將

同三条中將

洗心 幸右

浪子牧時被六死

浪子牧時被二

鶴尾中將

後井右京禮左

千種中將

萱中將

梅萱中將

梅小路共助禮左

富小路左衛門禮左

馬丸禮左中兵

橋井右馬頭

並光右馬頭

瑞小路右馬頭

日

白羽二重十足

柳之間

小小路新苑人

馬丸禮左中兵

押小路大外記

壬生友勢

或儀原

久禮右馬大元

引瀨左記

從儀原

寺家宰右

山口外記

村田式ア大懸

平田少内記

日

浪子牧時被二

日

治世叔時後二宛

治十叔時後二宛

治十叔時後二宛

治十叔時後二宛

時後二ツ

治十叔時後二宛

高倉遠江守

日治了少元

其繼若狹守

清水掃部左衛門

橋本之丞水依

立入洋江少忠

大橋左馬大元

北法院大刑言部及

入江和泉守

唐橋大刑言部及

渡路之丞

小泉之丞水

姉小治大刑言部及

近及内記

柳川一学

樂大内守及人

菅藤几人

岩崎雅少元

徳田雅少元

吉本玄菜田元

山科刑部大丞

堀川近江守

堀川左衛門尉

小井白飯助



治十牧河原二宛

今之牧河原三

山科 刑部大丞  
河原 左衛門大丞  
深尾丹波権助  
河原 左衛門大丞  
三宅内通少允  
吉原右衛門少尉  
田村 左衛門大丞  
山口 左衛門大丞  
林原 左衛門少丞  
河原 左衛門大丞

治十牧宛

右河原 行

河原 左衛門大丞  
七条 左衛門大丞  
森村 左衛門大丞

一 六月六日

公方様より 河原 左衛門大丞 青蓮院 山科宛

河原 左衛門大丞 河原 左衛門大丞

若君様より 河原 左衛門大丞 河原 左衛門大丞

公方様より 河原 左衛門大丞 河原 左衛門大丞

河原 左衛門大丞 河原 左衛門大丞

若君様より輪子女口申条方利傳人  
右中送留中一乃沙那とま

八月十日

治十枚

中使松平右近守

青蓮院中

口以

中使口人

梶井中

中巻柳より時後二十

中使柳田志

青蓮院中

口以

中使矢部徳

梶井中

若君様より  
治十枚

中使古波手

青蓮院中

口以

中使口人

梶井中

右中送留中一乃沙那とま

治十枚時後又

青蓮院中

経量院

口以

治十枚宛

武田少式

口以

源波左吏

治十枚宛

口以

源波長守

口以

平内河内守

口以

口以

武田信子

時後口

口以

源戸外礼

梶井中

子川守

治十枚時後又

梶井中

治十二夜

銀指夜光

口以

口以

口以

右由時三付与下

八月十四日

院井山

佛眼院

口坊

寺家守

口家司

井上徳彦守

口用

竹系太門

口醫師

渡了求馬

松下昌林

高橋掃部

治多夜指三光

口卷帳

善書帳

右由時三付以上後

右由時三付以上後

治十夜光

口夜光

治十夜光

中使松平右近將監

右大臣殿

口使

口使

口使

口使

小林筑前守

牧野甲斐守

寺家守

法眼百後守

林京右衛門

長中矢孫

右水照守之下

一 九月朔日曇小笠原總殿内像乳之百字面  
沙志那神之上野成山内

院門外帶佩門中申流滴馬之引

一〇〇 朽糸色 横田統後守

〇〇〇 不賊色 櫻 親守

〇一〇 紅 深津孫市市

〇一〇 トクサ 長部庄九市

一〇〇 朽糸 日根建禮

〇〇〇 紅 丸毛 一学

一〇〇 トクサ 沈木 敷馬

〇〇〇 朽糸 朝比奈市市在

〇〇〇 紅 窪田幸之丞

一〇〇 朽糸 小栗又之博

〇〇〇 本賊 水野岩五市

〇〇〇 紅 近後久之市

〇〇〇 紅 水种 敷馬

〇〇一 紅 神保 茂内

〇〇〇 朽糸 龜井平市

〇〇一 トクサ 高合 柳八

右水了沙側元田原之殿



腹襟の才で日光一糸もきく我意小舟にりし仕内  
とくへる浮判郎はすゝあんと蘭そとて由りまき  
我意とぬりふ福のとももつらゆなつ福も大立物  
とくやそれちやぬ丈あふ日光山の明神といふ  
尻込成やそれ天物屋と乞ふもゆんとのさうて  
こころますりねはかりに二首石思つら山のねえ  
て大あり評判を仕ませう

とく吉

市川右京

京より下りけるぬれ成勤もまじりなえ(出)れ  
しりぬれ成にたりますゝあぬれ成糸れしを  
又色うふりつてななえの目勤は仕合ていさる

ゆゑぬれ成い仕り志やとやますちと吉やの  
初つら成入る信成出するぬよ又ちやぬれ成  
まじりぬれ成

とく吉

市川月形

京福

春ぬりつらぬ田舎敷のな子と聲よせぬハ  
思ひけりぬれ成京せんぬれ成愚考をさす子  
いれし場はつらぬ成さあれた此と地ぬれ成  
はらぬ成成をさす子

尾上修祿

京福

京より下りぬのな成成勤るあく本屋えを  
勤りぬれ場えふよつらぬす利口な成志や

との評判にてこそより仲方小ふくまぬおよ  
にふけり

富沢作後

原庄

此人大妻以後より専ら社役(替り)六十日迄  
しく若年家の役男ぬらうし若年をつま  
比大分見負りてよりなえか替りてより  
今中役より替りて評判とうましく若年めり  
り母ゆたなどよそあぬの筆跡ふぬりゆ  
ふも諸人き教とれり

酒田杉博

松平大垣

今つものとおに戸中門よりそ若年色子成

ふらうていえたためた合子を付て人ふやう  
は内環しよの評判にていざる此と大橋の下  
おそのちよんのろをきさかうは城のぬ  
つきます

欲とて者

湫川三郎

彦水

は人おけ此方のまじりて一真女申れをいす  
強く一とんを物まきし評定所の邪人ぬ  
るは打大のたまひていざる諸人ぬも目  
のつと物小我うおれまは又おふと成そのま下  
近つとまうますを網戸役の井と志す  
中たを成ゆかかーいよ合持しゆめ

上と書

仲村因幡

所平島所

先豊後

水の友

いふ人一不の評しませい事申方とい申う多し  
丈而流る物と様しかりますまねをにや  
し〜加増と頂戴の志うらひ目すま〜く  
をあり〜合えう志といよの評判もことりや  
松因飯のほもとゆふ大林子の志たのきき首  
す〜年巻をとりゆる由んけかんより  
ます水豊飯の四年も若〜評〜家筋で  
いふれい思召れ大石分〜つ付き〜らよう

上と書

申啓豊後

歌波の今〜此人はよの仕あり〜と〜ぬ去年  
れあり〜の〜と〜よ〜持〜り〜  
い〜る光九飯の首も存をきめつけ〜  
仕付〜や〜あり〜て〜何人〜を〜  
い〜や〜の〜い〜と〜ん〜

上と書

坂東英法

い〜と〜社〜の〜波〜は〜あり〜と〜ぬ〜日光〜下〜  
る〜光〜の〜入〜洋〜判〜り〜も〜い〜字〜つ〜た〜路〜が〜在〜る〜  
は〜波〜飛〜の〜追〜う〜洋〜し〜ま〜や〜

沃村日向

誰〜や〜思〜ふ〜と〜日〜や〜と〜及〜徳〜の〜申〜奉〜志〜  
〜ぬ〜ま〜つ〜い〜は〜舞〜し〜と〜ま〜ね〜志〜の〜ま〜し〜物〜々〜の〜お



流をわかれしは行大ありてうんれ対て文  
武は達した人志希との洋判を沃か今方の相備  
との改敷申て何しあられぬ武及の仕下  
駈下しるも東度の志うあふ

上と寄

山中平九郎

比人妻付のよむに存れし山中平九郎を  
存たを年のつぎと藤の上れ以味すの二  
没は大ありとんまを妻相をよほけのり性  
を徳のられし御外れ人といけぬふ  
初馬喰下の

山中平九郎の御外れ人といけぬふ  
初馬喰下の

漢流海卷く二指入

西和之丙戌年

一 正月元日晴 年始沙儀式如例年

一 月十日雨天上野御名代 松平右近将監

一 月十一日雨式所連寄

二百石宛出給ふ

町奉行  
伴田豊守  
七尾辰守

一 月廿日上野上野廟系

一 月廿八日雪降 若君様沙袴あえ 仰上

一 月廿九日右お沙祝儀出仕

一 二月三日雪降右沙祝儀出仕あり

一 為之妻也

一 老松 親世天丈

一 八海 十太丈

一 東山 今之丈

一 二端 今剛丈

一 祝云 儀形

一 款大石 八右衛門

一 福の神傳を

一 二月六日 天樹院殿百年忌

寛文十一年 於傳通院法會 松平内務氏

松平右近將監二人出越 礼拝

一 二月廿日 水戸宰相家幹卿逝去 四十四歳

一 正月廿二日 水戸系府三月六日夜 水戸家権

一 善徳 四方 以島 七人 停止

一 同日 家老 大 城近 亡

一 二月十日 於町奉行 依田豊前 役 完 此 日 付

一 内 夜 之 祝 之 令 中 渡 不

川口徳光并丈死

比留谷十希

山口玄庫丈死

加茂山二十希

松平茂九希丈死

川井三沢希

設乐宮在の支死

大倉の牌

為九世右将

中倉米馬

山口玄庫支死

加茂文徳吉

川口能光支死

檀田徳之布

右一通の取の上揚り金上り

二月九日為凡八時之頃河元火元油屋出火

夜四時頃池下之為支芝居焼

二月下旬去々年百粒稼動一併出立云々

二月廿日目土老所焼出火三日目上迄敷火

二月廿六日河元赤坂地帯出火四時迄

二月廿七日南風強夜八時下谷所成道溝口大橋

が車坂下焼矣時河元

二月九日水戸山城下大火

二月七日晴々細心云々

若君様沙仁官沙元殿 正二位大納言

加冠 并伊掃部直幸

理髮 松平犯後守容緒

河元殿 沙官位 高沙元 同 沙上殿

公方様 大納言様 沙省殿





昨夜 今去吏

紅系將 十吏

祝云 二十席  
吳振

末廣りり

雲梯

么ちり 市部

源七席 三席

茂十席 信三席

八ちり

八ち博

惠乃り

又三席

信七席

一 四月廿七日土至之間

時披又

一 日武ッ

一 日

一 日

林 大學院

林 皇書院

人見 七之助

林 一百

青本 文蔵

源尾 権左衛門

林 宇多博

源尾 多昭

右 大納言様 少官佐 丹賀文 若上 丹賀

一 四月廿五日 丹賀少将殿 使者 肥田 和泉

云方様 日本國後代 少将

大納言様 丹賀源光 伏乞 少将

少将様 古今和号集 伏乞 少将 仁親 王業

大納言殿 丹賀源光 伏乞 少将

一 六月廿七日 大納言権 沙元後之市院成

沙院日光寺之坊之寺堂

加茂 室生大吏 兼平 式大席

権垣 親世大吏 正高 丁大吏

礼 今言大吏 急須此河の坊

ぬあうり 孫三席

加茂のる 孫三席

一 六月二日法公院殿遊云十三歳 九家子代若母之日 月殿中

志志之 仙出月十日 上野谷中林光院 葉送

一 六月十九日 沙使 松平右系大吏 阿部伴祿守

尾張中納言殿

右之沙妹階殿 二条右大臣殿 縁垣之仙出  
今朝之仙出 右之雨礼堂

尾張中納言殿 同 申好殿

一 七月廿日 昨夜申 小言目白下邊水川

大橋中ノ橋落小日向川通 洪水本下邊日

月廿八日 天小日向筋又之也

一 十一月二日夜 芝切通所をす 出大南風

箆小流よりぬき七時迄

一 同日 夜四時 小日向若推本屋 松平定之

抱屋 爰地 借蛇屋 市進 田毎 出大戊亥風

栄ちつふ所大弟伊織包交むす大此處より  
九時三十分

十一月十九日 沙使 河部伊豫守

二種二河 徳川氏ノ御殿

右より執事御殿よりお沙祝成とせしめ  
此礼也城於此處より同沙射教沙子自  
清の備後小教貞次 伏乞す取を

十一月廿六日 平下葛陽天石宗お山ヒと捕  
邪法ノ氣ノ由ノ口教俗教多由ヒ交ヒ付ヒ  
右捕ヒ中ヒ後お山ノ宰ノ死ノ付ヒ右ノ一件お山  
中ノ由ノ所奉行依田是所正り

落去

三つておと蔵ラとよラしふラ山宗有ハ

彌陀成程ノ依田の地ノ一  
今此成出ノ珠ノ投ノ成ノキノトノ人

一 為成春申去昔より大小の物大時以成外  
荒ノ夫ノ共成度比追もノ五ノ山ノ念ノあノくノ人  
二 支ノとノ凝ノ中津ノ後ノ宋ノ女ノ大ノ久ノ保ノ志ノ千ノ希  
河部八ノ怒ノ名ノ者ノ由ノ中ノ觸ノ

一 大術言種沙渡ノ乃沙祝ノ朝鮮國ノ村ノ長ノ後ノ小ノ得  
使ノ系ノ船ノ七月十九日彼ノ出ノ形ノ起ノ風ノ浪ノ強ノ全ノ漂ノ流ノ島  
右ノ系ノ船ノ九人ノ船ノ具ノ五ノ付ノ長ノ系ノ船ノ



漢氏古教也食成

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

續後海卷之拾六

明和四丁亥年

- 一 正月元日臨沙礼式如恒例日能申列可也
- 一 月十日之野 上野
- 一 月十二日小川筋初所為建事成
- 一 月十三日一橋所舍才令千所成夜廢付早也
- 一 月十四日坊上守 上野
- 一 月十九日冥东筋川渡沙 上野 松平陸奥守
- 一 松平安藝守 由劫定奉行小野日向守
- 一 月味没吉田之丸唐 上野 栗林平之希
- 一 右川 上野

二月十七日八丁堀源人山後大武と百補

二月廿七日天英院櫛廿七回沙急行止成

二月廿二日晴六丁堀源人山後大武と百補

信院櫛沙急行止成

沙後物

白浪之指投

白浪之指投

二指之指投

指上の方丈に

白浪之指投

白浪之指投

白浪之指投

没者四人に別高に

二月九日晴南風之末時系橋合六町が書き名橋

あそ申列橋系

二月八日夜八時浅草駒形町が出た南風あそ親高

雷神門焼失整天町あそ親高

二月廿七日 中後覺

中後覺

馬場之系在り

名代多し指投し物

間部玄葉甫

名代建部荒次郎

大河内若之橋

駒井角右衛門

度之病凡之門述波也勅也之新得之者  
下取泊り妻茂下不仕借妻小多分其留也中取  
勅方不宣之也之也之也之也之也之也之也之也  
如之 何之

中使妻

土屋忠藏

度之病凡之門述波也勅也之新得之者中取  
泊り妻茂下不仕借妻小多分其留也中取  
勅方不宣之也之也之也之也之也之也之也之也  
如之 何之  
右之紙也凡之門述波也勅也之新得之者中取  
泊り妻茂下不仕借妻小多分其留也中取  
勅方不宣之也之也之也之也之也之也之也之也  
如之 何之

中使妻

土屋忠藏

土屋忠藏

土屋忠藏

土屋忠藏

土屋忠藏

土屋忠藏

土屋忠藏

度之病凡之門述波也勅也之新得之者  
下取泊り妻茂下不仕借妻小多分其留也中取  
勅方不宣之也之也之也之也之也之也之也之也  
如之 何之

田邊夏

柳原石之書

村瀬伊左衛門

度之病氣之門述波勢勅りて浩曼治りて夏  
多分新没者上右新元留り申下安勅方之  
如の半の向後急度下右怪り申す

定方消

花房外記

室賀玄庫

津夜丸門

大久保吉十郎

不及指扣

日没元何れは古没者新没者下右怪り  
候は浮術候はつて半の向後急度下右怪り  
そよ如の成半たはて致粗お安の向後急度  
下怪り申す

田邊夏

山田立長

木村澄庵

名代小柴玄仙

久志平式部

名代松原宗悦

増山養甫

不及死扣

田邊夏勅りて近お安の向後急度下右怪り申す

右の録取廿六日右見お夜に此宅内人今後  
宣賀源七希内夜に祝ひ紙

右の所書

馬場之希在儀の紙

いづれお祓とたれらるゝやと申ししたるはれども  
新設成合たとてこの中合揚まゝ馬場とたれども

同紙

張り紙る紙とてこれと敷き赤い云蓋より

駒井

おれ並ぶとも駒井といひに小蓋入てあるは角た

真津

此のうぐた京りかき此不動の紙にて更て真津より

首

丈ありかき不動の紙とて此不動の紙にて更て真津より

二枝

此紙にて何とも書かざるは此の紙のうぐた枝ゆり

村瀬柳

新設とせのむい車の中伊左内一木を五段の

馬場駒井馬場大河内七尾

おれ並ぶとも駒井といひに小蓋入てあるは角た

馬場駒井馬場大河内七尾

年次へ一馬場駒井といひに小蓋入てあるは角た

修理紙

一 六月十日晴日比谷内山久孫死す  
不沙焼亡す於鏡

一 月十二日於坊とて所廟前邊表使女中とてお家お村  
死す由

一 六月十八日卯六時地震云強く破損す其日大  
後若年あり松平御評も辰宅御容も門あり  
侍合し言て此使女御中とて御帳見難むと  
り新御書次坊敷馬車流取能物十布少々懐我  
いすされぬよし付相多

眼差成依神々松橋えられし名を流し流し対あり  
思ひも事とてとてり対あり坊とてとてり京より南との

一 札ありよけもせうはよき事のもがまはくろきあり  
あまのあしよもやぬけしと鎌まのそゆりおきりて  
尻尻光智助彦井村在るの事百姓細生  
たふ大根意し人の形のかくこも

一 六月十二日諱信院棟七回沙忘身坊とてとて  
お成

一 六月廿八日於芝暮るる 秋元但馬守

谷代 伊井去秋元補  
秋元一学

右病氣に付也没也免下叙に御接交し思  
不の事一沙没也免馬車同席に候



一 七月朔日 ありて 出設略

田代用人

板倉依後守

西九下老中

きりきり加治

田代元

田代用人

田代元

西九下老中

一 西九下 ありて 依後守 依後守

一 日下 板倉 依後守 依後守

右 依後守 依後守

依後守

田代元 依後守 依後守 依後守

依後守 依後守 依後守 依後守

一 七月十一日

田代元

田代元

西九下 依後守 依後守

西九下 依後守 依後守

田代元

父 田代元 依後守 依後守

西九下 依後守 依後守

依後守 依後守 依後守

依後守 依後守 依後守

一 七月十一日 東海 依後守 依後守

江戸表に少く風多し

八月十五日一ツ橋の門内秋元但馬守の妻が此  
九月五日

田沼の夜取  
其後橋の門内田沼の夜取の妻が此

秋元但馬守

八月十六日尾の又々大風多し

八月十六日 一使 右京左衛門

周防守 浅川右衛門

右の氣の通 沙白書院 酒井左衛門

酒井左衛門

右の氣の通 沙白書院

江戸

江戸自沙白書院 江戸中將殿

沙白書院 江戸中將殿

右の氣の通 沙白書院

江戸中將殿

八月廿一日織田次郎源三一件の江戸

八月廿二日 山原大次郎沙白書院

一件未

八月廿三日

山原

松平下総守 長沢左衛門



本三月五日付系部 沙使 是也 仁渡

仁渡

松平下総守

一 国九月五日

沙白書院

上及麻橋

松平大和守

武長川紙

芙蓉

川紙

秋之但馬守

羽衣山紙

右所望 仁渡

一 十月七日

中書院書院

水野山城守

神保備前守

沙白使書院

小系安房守

土屋丹後守

大玄 仁渡 助揚 法成 高野馬 勒子 例年 公平

竟中 合能 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡

仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡

仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡 仁渡

仁渡

河津吉十郎

大園正三郎

仁渡

牧中内色

鴻田洋三

山城守

堀内様

安房守

井上之丞

丹波守

藏日量書

市院氏

中山伊勢守

日下安太郎

右日記

一十月十八日吹上之羽成真向駒射

上流丈より清水の沙倉形に羽成作

一十月廿七日小松川邊に羽成今日

沙成先射當に覺

一鷹一羽

中書院兼神保肥前守從

田村物吉

赤松徳小桑安房守從

野井瑞三郎

新田重美の弟海守從

内宿三三様

小十人伊中監務從

石原又八郎

小鸭一羽

一十二月朔日晴冬之

一十二月十日晴赤賀文東海に通了今日沙成

沙成に羽入

一月六日

赤賀文東月十日此後納來月沙成入

大毎の共表向平帳

一月十日 沙使 伊豫守

乙方種の一程二程  
大納言種は青一打  
徳川氏初令殿

右沙野実宮沙方は徳納之  
意有付の正統殿は是々

十二月朔日 沙使 紀伊宰相殿

此任中納言

右沙野新敷沙方目由願半蛇は是々

十二月二日 尾法中納言殿

合之方兩 竹腰山城守

右尾法殿は紙少損先付は是々通

一月四日 今入建時 依借抄 右沙野実文一程は

沙野禮 下海下

一月八日 依使 依京是

依三指板 徳川氏初令殿

大納言種より是等十二程二程

右依京の依禮礼下海は是々

時版十 右通好監

日七 主殿民

日六 抄津守

右等沙野実文は禮礼は用は勅は是々

十二月六日 徳川氏初令殿

右等沙野実文は禮礼は用は勅は是々

乙方極上 大乃合馬代 毛馬十

沙老極上 綿共把二種一乃

大納極上 大乃合馬代 毛馬又

藤中沙老當

公方極上 文老既日子浦前極上

香盆 榮前極上通

沙老極上 料紙裝 鮮青亦

十一月廿一日 田沼之殿 既沙役我乃振舞之中

若年寄 振舞之々 乃在乃沙也 既也々々

三幅射 沙老乃 洋紙有々

右沙後 洋紙之々 乃弘之為之 乃振之 中披露

追加

七月十二日夜八時 乃乃乃乃

尾張殿 中紙分

一村々 切不 乃合之 百四十八 請此乃 殺之 乃子 乃言 乃之 乃

一 妙入 乃合 乃子 乃百 乃二十九 町

一流家 乃乃 乃不知 乃乃 乃八百 乃乃 乃九 町

一村々 流竹 乃乃 乃殺 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

一 不 仇 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

一 死人 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

一 死馬 八十 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

右々 通 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

山練大式正任之一件

一 昭和丁亥年八月廿一日

元和五ヨリ織田氏代々領之

上鍛治橋之内大寺ヨリ十町中溜池之上

高二万石在所上列拜樂郡小幡

柳間

織田英濃守

江戸ヨリ二十九里十六丁

名代織田之馬

紋凡五七桐先挾箱二本道具凡亦傘

供鎗供馬

之方亦身名曰玄蕃後格之役扱不不意之役世之  
ニ付先達之格中付之動之由執着玄蕃而山練大式之  
中者、上出入甲府碓氷箱根小之要害之役扱及  
由役出揚不扱之役中教めり之付以味中付之付内  
此以味之由成由中候之云候、上抱之候ゆる之亦以力  
一ニ九斗一候役人少之付之成たけハ役人、上中付子速

玄蕃相為之津之虚実淺深之別不及不元  
メ之由共何之云候、上中之立処之役右玄蕃如  
中付之候之云方對一之候に処之而之者、九斗  
對之候ハ候之以味中付之進之寫案、上云之  
役人少ハ進以味及是引之候不坊之候之限兵  
之何之候、上藝兵は之を在之

何之西百通

織田八百八

名代坂井儀之

織田英濃守之不坊之由之候、上院居之候、上藝兵  
は之之由之者之候、上何之先達之候、上書之  
以之、上付之方之由之、上右之、上進之、上相次

貞次之内 不器の事 仁行

三ノ家

織田将馬守

名代由良播磨守

織田貞澄守家来言曰玄蕃交不坊々美あり  
二付知也交貞澄守家来其評候お交貞澄守に  
中迄以後之方は一海り中少く貞澄守候内  
中交之其役人其評候お交候之上追与九斗方も  
てまゝ候之付先役人其才方一海り中付至て能高貞澄  
守一及挨拶由良守玄蕃候と重き役候てお勅  
の半は坊々たふ坊々次才をて得て取立  
義評之方義同姓之上貞澄守交志実三男

半は坊々平日其ありまゝ半は坊々り  
之と玄蕃交浪人山孫大武と中りとのあ合り  
元沙坊々りまゝ交候を取立候方も  
此等保成元年不坊々り交不器の事 依  
涉没元石放院居候 仁行急交候の事

織田式部

名代和半内礼

同氏将馬守半由没候 石放院居候 仁行  
家来言水邊之方此下とて考合候 仁行  
同之由目通了是候

織田八百八  
名代坂井佐治

飛沼橋の上を渡りて 石山に渡りて  
丹波守通りたる所なり  
右伊豫守飯於此宅中列産此日人元  
仁後也

一 亥八月廿一日

一 丙和也 亥年二月十八日入宰浪人山練大武此宅  
八月廿二日松平右近將監殿御書

中渡

永次所安寺塔后浪人

山練大武

四十三

右山練大武美遂此宅中列産此日人元  
仁後也

藝州之廟に由りて門外入魂波の所を云礼或者  
変津之と云礼河津之用に由りて云云立身中渡  
名中渡の儀云礼此好の所理に由りて又甲府  
中渡村に武念矢敷の所在道に何れ中渡一筆  
是心宿也云云 右に云礼の所由古書に云云  
此中渡上列多し百姓其澄之なる所を其後云云  
由古書に由りて禁裏の所を云云云云  
門外に由りて難該堂上方に古美の所を云云  
双紙に由りて或る云云に講釈の所を云云  
為り難に由りて甲府の所を及んで云云  
理地名城下也 門外に由りて

此波備沃少多其勢恐多不致... 死累中付く

永沃町安業店浪人山孫大武方飛  
系親町三系中好家外由中下

友井右門

友井右門... 可三丁目源... 二丁目... 学波... 友井右門古書通云孔

此波... 友井右門... 可三丁目源... 二丁目... 学波... 友井右門古書通云孔



彼方は中身からよりの合戦了りしもの、不致これ  
成自然とあり書と通して、多々及ぶ彼種法  
に後不致く及ぶ不届の種、於不川獄門の中

所人者其は仕色科書

平町字目原尾宿所醫

亥巳十七

神田小御所三丁の事書所居人

楳井久馬

亥巳十九

日永富町三丁目伏見尾宿所居人

依教源去吏

亥巳十一

南殿沼所事目忠名の居所居人

丑宗

亥巳十七

之方其後永沢町浪山線大武所居人由之門人子居

嘗と方家来り仰る、在井太門と云ふ、不致く及ぶ  
中、此の所新町の政か合か度く、これ紀と約同  
処射、乙候の思多キ半は、及新終り、大武太門及送  
之企つ、一、此と存推量、不恒成、及、治定  
疑、お徳又、此中子、其、角、親愛、治方と、水、り、ゆ、え  
何道と、及、を、と、お、お、紀、返、送、信、堂、と、る、と、お、案、大、右  
お、お、好、り、ゆ、え、と、九、集、徳、を、其、内、と、大、武、太、門、一、向、親、人  
多、く、之、者、と、角、其、外、此、家、人、并、嘗、上、と、る、と、味、と、お、  
み、く、由、を、キ、半、は、政、お、徳、を、方、其、後、と、陰、お、お、  
其、家、を、此、の、所、有、彼、是、九、振、一、達、及、送、人、と、存、て  
所、お、お、ゆ、を、と、存、り、く、疑、及、心、付、り、其、虚、美、小、八、之、抱

及之夢如類之新、可所かり當之止し思多美成  
存ッ、お安の指、之指中、之、脱ハ、新ら、之、保、云、後、  
波、一、方、不、届、之、何、之、方、在、所、不、大、武、方、之、衆、  
者、近、入、年、一、一、以、給、後、お、成、之、上、名、之、之、捨、所、状、  
捨、文、ホ、ト、右、池、之、方、今、一、之、方、九、仁、業、お、安、之、  
不、届、之、之、重、科、之、者、何、死、衆、の中、付、之、度、大、武、  
太、門、之、入、及、送、人、之、企、お、之、或、之、毛、改、之、之、以、武、去、書、雜、  
流、或、ハ、堂、上、之、方、之、或、之、外、思、入、不、教、之、新、活、之、教、  
脱、之、之、方、在、中、之、下、之、る、お、之、大、武、之、死、衆、太、門、之、入、之、獄、之、  
之、在、成、以、信、之、お、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

中付者也

歌日本橋 北詰 二日晒 北詰

お安之波守家本

吉身之在傳 五十六

之方後去年十二月奉了二丁目町醫所之次準曹日在  
紙彼是親友親之所出也、有及内流之、後、名、之、書、付、  
清、之、到、之、如、為、二、月、準、曹、以、味、之、お、成、以、進、爲、保、波、  
之、到、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
根、中、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

久保平三郎此後及下甲及巨摩郡  
沙王新所村居山孫女史也  
一白付 市布在 五十六

之方後先言及病死ハ百姓市布為の株と皮に  
續人別帳ハ市布為の記到ハ百姓ハ皮と皮  
之ハ地他ハ市布幾ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布  
各系及帯力且示才永決町居人山孫大武之学海沃  
之方甲及之方外ハ要害ハ地利地名ハ市布攻力  
防方ホ之方中教ハ不致ハ地ハ地盤ハ市布ハ市布  
之書ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布  
申進及ハ市布

織田英濃守家来立赤坂老威

津田元助

岡中定右

病死

日用人

松原那吉

津田元助

柘植源四郎

病死

日在府年多

之方其後先言及病死ハ百姓市布為の株と皮に  
續人別帳ハ市布為の記到ハ百姓ハ皮と皮  
之ハ地他ハ市布幾ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布  
各系及帯力且示才永決町居人山孫大武之学海沃  
之方甲及之方外ハ要害ハ地利地名ハ市布攻力  
防方ホ之方中教ハ不致ハ地ハ地盤ハ市布ハ市布  
之書ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布ハ市布  
申進及ハ市布

大新之夢中安んじ後英像も又茂之致し以て  
拾遺梅叟物語に終り不元々之の書當り  
義濃守の中安んじ番交橙高我急流の付云蕃  
并同急者其丈之答中付梅叟再終之終り此味  
の仕音中安んじ通し之通し之通し中付中付云  
蕃之外也中安んじ蕃交我急橙高之英像も  
其成るも終り之終り中安んじ之終り之終り  
不元々之の書當り中安んじ之終り之終り  
到るも終り之終り中安んじ之終り之終り  
可成不好之終り之終り中安んじ之終り之終り

此之通し之終り中安んじ之終り之終り  
存り勿論此味之終り中安んじ之終り之終り  
此右路末之人之調法も其成既之英像  
に及んば為し之終り中安んじ之終り之終り  
之終り中安んじ之終り之終り

織田英流之終り之終り中安んじ之終り之終り  
京都妙人末祥宗景福之終り

梅叟 五十一

其方機織田英流も家外吾田云蕃同之終り  
浪人山嶽大之終り之終り中安んじ之終り之終り  
波其終り之終り中安んじ之終り之終り

要害は能地ならずして甲府山城内は防備小形が  
 幾分防備次第根を一續し山より由大武が新築玄蕃  
 候大武が家中兵学を中子と門守より由を介し  
 玄蕃及兵衛等の学又初め方候所存あり候由之  
 此所大武の決り兵衛等が家系松原郡大武の由に  
 郡大武の河を以て流舟立れ此所を方候と題随  
 自然と疑ふは亦あり候中子と云著上技方あり  
 可送旨中子候と云く此等邊技方なりと云旨郡大武  
 中子と云大武の所なり候と云旨郡大武の外中子と云  
 用人共著多別は為流すは此邊より候あり候  
 此所兵衛と云く役人共あり候押迫し候と云旨中子

中子と云邊旨と云旨は候共つ小武と云方候中子邊  
 中子と云

御田兵衛と云家系と云候

吉田玄蕃

三十二

其方候永代所居人山孫大武が将学多能く由は  
 其方及て其武学文章由今此玄学と云亦甲府  
 地利地名甲府山城門は防備小形なりと云旨  
 彼是所候なり候一和学執心と云著上と云旨  
 其方自然武家と云此等邊技方あり候と云旨  
 其方示す方候重と云役人と云不和なり候と云旨  
 之が度候子と云旨大武学文章は其方学方

致由家中より中觸一は月夜候に陸より可成  
致と存出云と云のハ係成致存より可成  
車忽と云の事ハ一ハ月外より小斗成候に  
仍号の信傍書書と云大武中より就處之人  
次後書書存候より由に職録美拵成致と  
繫拵中付と云由中より右に始末拵と云大武  
後付外に致令と云の事ハ接し

織田次郎忠与家来

吉田八郎

高足次与家来

今方其成去年之四月比より永沃所浪人山練大武

云字の事子にお成と云後ハ弟足吉田玄蕃成  
大武と云之度お成より其左様の字と云  
お成とお成の事ハ一ハ月外より大武お成  
お成の事ハ一ハ月外より大武お成  
別築お成と云地利地名を介城と云要書本  
川内攻方防方中武と新決と書部と書と云  
卷武家と云の事ハ一ハ月外より大武お成  
致中より致と云の事ハ一ハ月外より大武  
存候より一ハ月外より大武お成  
中より大武お成と云の事ハ一ハ月外より大武  
致より接し

織田英清也家来當り居没

村田俊左衛門

予方後永沃所浪人山祿大寺学文と云ふ片多りしか  
風義と云ふ不守の中より家の中子共多お成りたる如  
友月是為る程云々年十二月吉田玄蕃中  
安山処云々年正月の如く撰ゆ多も云々  
之通り云々人たり程中何れも不知り有波後撰  
由中何れ外抱りゆ家ハ云々何れ好命也云々  
撰ゆ

物及治令と家町源原抄録  
又左史方居の式部

竹内 正徳  
三十一

予方後永沃所浪人山祿大寺年同人方居り京都  
正親所之条中お成りたる由中云々友井右門  
及連一味と有る由所人云々是れ大寺右門交り及連  
ハ云々予方後大寺人知人ト云々考鏡友知也  
云々由是れ先年於京都寺中追放と云々京都  
寺撰場下云々処何れ居云々友ハ云々苦ガカル云々  
存此撰場下云々云々何れ不居り身是れ中云々

河部伊豫守家来

今村 洋次

茂上 六郎

内友 源六郎

三十一

撰ゆ

日

日

孫

永井飛騨守家来

市川清彦

新田重房津田日向守之家来  
神田重房所代地并之来店

治人 三木九布之来

友中毛前田成及下田久山利和  
下小河系村山王信理神主

加加久人上総

日人又 加加久人信濃

久保年之布代友下甲及巨磨部  
新之新町村兵部山孫被及子百姓  
市布在唐門地也

孫 三十八

松平重定守家来醫所

胡倉 立庵

志屋幾子得方中村八布在之信

治人 沃田 文治

永沃所安系店治人山孫被及子百姓

才子 富永 道全

石川大次右左衛門

孫 三十九

美原信清河太布系永原

高橋 文伸

永沃町家之

安宅信

日 日

日

日

日

日

日

日 日

日



松平任守形朱

後鴻傳藏

永代町妻木屋辰八山録大武方若川

盲人

东条

二十二

日

右所奉行依田豊左衛門尉松平左兵衛  
左衛門尉中後

一 大武出而も甲改方力由故もて醫方原成六六年  
以前退大志倉庫改方より勅挑改中り也

一 日人指下も書外科桑海乃も洋改改も由

一 大日人作書あは編甚此中も射 乙後  
不面成箱もて由飛長委初也と告知も中り也

一 大武一件 尚亥二月十八日と云補門九日也似半下也

廿九日也中も勅七布 此は補揚り也と云

此は是も刻もあらん

一 日三月十二日也酒院也門大武見行門式ア伴

兼乃河系也孫鶴と云長補也城左京也也

大平 幼平 此は是も刻もあらん

落書

織田つねも流あやまると云ふもそ尾の首と云ふ  
御つての親なるもと云ふも右同のたの若井獄門

軍学にも録らん也志也この大武の首も落すれり

尚亥秋八月十二夜録中もて録付り

中し〜子墨〜子月今宵

晴〜る〜し〜宿〜あ〜福は

一 同九月十六日

中夜〜覺

由先子

細井全右衛門

右代福左衛門

先達と盜賊及び子勅は信至と伺ふ火附は若  
源初と此及再急速味〜火附は之〜使と交  
味〜刻〜川〜者近直細〜可道味〜此〜後  
与力も由久〜懸〜何〜類〜少〜交〜交  
道味〜火附〜之〜使〜求〜火附〜九招〜

中〜と〜源物と懸〜書方〜不〜急〜書行〜  
根〜及方有信〜交〜書〜下〜冊〜追〜久〜懸方〜文通  
〜中〜一〜種〜味〜及方〜幕末〜火附〜九招〜  
及方且又本台新所候右衛門以合わ為清八方同  
公考も〜信押書付〜并同公考奉不〜市市  
之博と右捕〜音口上懸〜交〜市〜不〜交〜市〜  
付方不〜合〜右〜種〜交〜不〜交〜身〜代〜  
候〜由〜段〜右放小普信入逼塞〜信付〜

一 同九月

中夜〜覺

由小納戸

細井珠三郎

父金三郎の事始末を記すに由りて此所は皆之 信行  
依りて之方より納戸及び 伊左衛門各之 信行  
之小出信濃守殿於此宅に同人之信濃守に目付  
の神名十郎 松植之藏に在り

及下より之を信行の信行  
此宅に細井金三郎の信行  
高田久之助

日人經口之房  
久之助

高田榮三郎

中進殿

日人經口  
高田榮三郎

日人經口

石川左吉

此切未だ使わらざる

友中徳之助

小崎新平

日人經口

箕 友久

三島金三

源也

三島者乃其元洲人の子多き  
者付七准之志に信行付之  
穢多氏之洋左衛門の信行

遊人於此七子不

中道教の事付者より其水人交付  
大に准し少あるは徳也中付の福澤なる中道

水人改く其書

小倉氏

推し

平手道教の事付者此の  
水人交り付口以浮るる中道

大徳馬町塩所

在右の在徳倉

質物より中付の古質物と違ふ 吾も其

源を博更あり其質代後之利其に之と  
之と料之更又中付

松右の年下北人

九二人

推し

南管新町

家之五人

年寄三人

名之五人

推し

芝草屋同前

家之五人

大に組三人

定行半三人

右に於て全裁少守此役宅定契源七尋五合

改めし中付

天保九年九月十一日

後是為善

為町東小

折ハ五重姓

東小北其地より

王城の畧つておもう

為す我拂ふ

ありよハ

山うけ北の後川や

末白川の波ハハ

いされよきまきハ

老ふれあんとるや

伊里

後長馬院

先換

松崎寺

豊徳

村と光

山録大寺

汗田日向寺

五馬中智大補

庭よ池ありたつ

多の宿に池中の樹

傍にたつく月下の門

出入人々多敷くの

袖はつと祢禰と藤

父めくくみ根ハ

実ハ花の如く

己もさ法の教く

順達の縁ハいやす

日夜新書に急を歩

九変之伏の友たけて

川井江希之傳

山録大寺

山下の茶屋

松平右衛門

松崎寺

源川中町

たじこ文新織

お名傳つらうり

山録大寺

新曆初巻

長崎新出帳

秋来てけりしと驚くま

沙代友上納

閑庭の秋の風

日光奉行

一夏の秋政経し

院範時

志ありくおたの氣とせ おく女中

地あり小移ふ月影下化元生 川崎平右衛門

東小陰陽北時音と実を知らせる 水鏡抄著陸

春の夜北園いあやあき 細井入左衛門

梅のまふ 重正かきま 金吾子

矢ふそんて祢 奥水独

香あうころろ 板倉徳俊守

実よやあまを 山邊清之入

香にメてし香を

福系成中守

よへん今うすに

小笠原若狭守

思ひおれ我あふあう

伊奈備前守

意志す海に

松平筑前守

わらこあ人成

沙法半

あまさん心

百姓袖乞

是近そ花の根子

水谷伝清守

あが古葉にゆれそ

秋元但馬守

方丈の煙火定と和入あみん

小堀日向守

こころそ花の基ふ

長谷川左衛門

鴻の巣火之 天守物次希

和泉式部...  
方丈の室...  
美の堂...  
失より

平井新田...  
此られた...  
大清...  
上村...

。浮世之幅射

飛鳥も...  
天下...  
全盛...  
世の...  
堯舜の子孫...  
子孫...

松平...  
松平...  
松平...  
松平...  
松平...  
松平...  
松平...  
松平...

名...  
百の後...  
本町...  
大若...  
三幅射...  
山...  
三幅射

親世...  
柳...  
佐...  
母...  
尾...  
大田...  
友...  
九...  
小...  
小...

大右のよしの  
ふの幅射

秋分と同  
今辰の三幅射

秀又人の及  
ぬの幅射

りけらまて  
入のき三幅射

教元と  
三幅射

酒と  
み底の三幅射

笑と  
ひぬの幅射

志  
迎るの幅射

ちのめ  
秋といの幅射

無  
有キの幅射

有馬  
松平河波守

三川左  
井上寛守

小野日向守  
依田豊守

赤  
中  
茂

板  
小出  
松平

深川  
市川

松平  
水

源川  
日  
大

所  
松平  
土

三  
風  
秋



若無の急ぎぬ  
三幅射

了能よき遊し  
三幅射

所愛又此のよ  
三幅射

小野當風奇字云々

鉛 鈦 鋌 鑪

どうもむきつるましましあいらんあふ  
あきあふあふあふあふあふあふあふあふ

松平周防守  
水野豊後守  
古井大炊民

源川子山  
甚田和柳

大上松尾松丸  
松尾松丸

いづうのりまおらう

葉すす木一百約

追出門人  
射客

晴雨ともよ燈あ

入料とんだい有たけ

大勝子定連源才有

表向飛入先之料

別派芝城あ持之

正月十日余初

登城あ

近初やにッの時斗

金つこと

是淋了甘あへり明の夏の春  
 花にゆ子の所用たにありて  
 何れ何れに花の面う  
 さし帯も内よき帯のす  
 糸裁ハ智急蹴のけて  
 能い侍も夜来と月の下  
 ついでと並ふと喜築の  
 裏門はゆも新蜻蛉  
 不時の孩縁の初産  
 何れかといふ挨拶のい  
 かき成道れるも教出情  
 大目  
 大あせ  
 加後  
 家津  
 進上  
 合廻  
 列産  
 刀札  
 呼名  
 六日  
 六日

肝黄ハ人小食を秋瘴とも  
 女の縁の急角のり系  
 中宿も以るありて  
 中宿を女の裏ちて  
 をむそふか教をちて  
 ろいといふふりて  
 成すてハもあて  
 杖のうられ為谷の紙  
 毛をへりてふふりて  
 何よ人の雲雀をよ  
 大入成又川是る二乃  
 此先子  
 真向  
 隼人  
 三宅  
 吹麦  
 門麦  
 似物  
 弓矢  
 長崎  
 秋上  
 二花目

附込鹿一古紙つゝふ  
今朝より只今中朝も午も  
そのまゝ府子の遠入ます  
又半、懐子まゝく時を  
いはれし心あし神々  
此言を武彦院と覚悟して  
もけ長く先新角力満  
一寸の虫一々窓の入り下り  
そそ成能越地成を不使者  
不とりよすさ所の十二夜  
はりの美の子活知はかして色

此礼  
頃礼  
二子時  
日乃  
此次  
うけ終  
実空  
曲く  
初を物  
心ま  
利人達

成よりあぬ教の男ゆ  
交よむううとこる神  
真向と以る勤一頃礼  
麻られぬ修子井心の黒人  
紙入ときやんよあふ名成所  
かまのうられは工吏事一  
江縁者ハ玄園く斗りあふは  
今日ハ通りくささる矢射り  
表所成とやんと着くあふ親の忠  
十一日成心むすつす  
鶴井備牛の布めく六女

一通  
日系  
若家合  
乞が合  
孫海  
何哉  
王表  
五次  
中真  
深目  
仇仇

高麗のもはるふ年れ女  
その功の積まハ襟よもことんせ  
ゆつゝせいのゝもも標は  
舞よ居て吾妻れ月夜慕  
をこゝかゝる手紙をよきさうと  
とるうとあとの落ふいりのゆ  
もろすももをよ居りて候  
附合のつたうももれも松的  
舞足袋流よ夜光の山  
何れも半う能出ふ親りて  
そ支核をよ目まの半

残没  
不  
火消  
諸良代  
中城代  
中司人  
騎射人  
帯佩  
總殿  
夜つ  
川合

先細く中せぬ常れは納戸来  
おのまよ惚れふ給陣れ我  
皆足成物神山の出来いあり  
大てつねうれ暮目あき  
朝けくよ内処あつりの及り  
あふれくく跡一歩も  
冥妻らつらう妻様くの月  
まつたをられらやうに教ル萩  
ひももあゝく浮世の業は  
構くぬくもる餅の福多  
何やうも月をのすめいり衣

何後  
栄川  
久世  
十彦  
列彦  
三彦目  
但馳  
三彦  
林丁  
あふ  
天王山

信長の子(西人)のゆゑ  
殺し多し(和)のゆゑ(二)親川  
宗込(和)の迷ふ(三)十時  
おむ樹(和)の蟬のり(四)うす  
今日(五)用(六)ま(七)り(八)も(九)や(十)り  
家(十一)の(十二)ま(十三)り(十四)て(十五)え(十六)の(十七)お(十八)り(十九)も(二十)り  
七(廿一)産(廿二)の(廿三)あ(廿四)り(廿五)禮(廿六)の(廿七)是(廿八)  
能(廿九)ひ(三十)子(卅一)牙(卅二)投(卅三)入(卅四)り(卅五)源(卅六)氏(卅七)を(卅八)  
鹿(卅九)子(四十)を(四十一)の(四十二)う(四十三)ら(四十四)る(四十五)あ(四十六)り(四十七)縁(四十八)  
毛(四十九)采(五十)を(五十一)枝(五十二)杖(五十三)を(五十四)多(五十五)く(五十六)我(五十七)躬(五十八)の(五十九)月(六十)  
射(六十一)の(六十二)第(六十三)段(六十四)に(六十五)射(六十六)ふ(六十七)人(六十八)形(六十九)

井上  
雛子  
大局  
阿路り  
門下  
梅澤  
此致  
膝下  
心高  
相人  
番登

い(一)し(二)と(三)ど(四)く(五)春(六)中(七)へ(八)あ(九)り(十)清(十一)む(十二)ら  
那(十三)を(十四)何(十五)の(十六)う(十七)今(十八)れ(十九)切(二十)飛(廿一)流(廿二)  
貧(廿三)し(廿四)我(廿五)と(廿六)違(廿七)ふ(廿八)我(廿九)之(三十)の(卅一)海(卅二)濱(卅三)は(卅四)絶(卅五)  
世(卅六)は(卅七)大(卅八)坂(卅九)の(四十)沙(四十一)汰(四十二)し(四十三)う(四十四)ら(四十五)す(四十六)ら  
下(四十七)路(四十八)下(四十九)け(五十)し(五十一)末(五十二)に(五十三)ら(五十四)の(五十五)下(五十六)の(五十七)ら(五十八)よ  
ふ(五十九)屋(六十)の(六十一)悍(六十二)馬(六十三)を(六十四)て(六十五)こ(六十六)ら  
お(六十七)も(六十八)い(六十九)記(七十)や(七十一)七(七十二)指(七十三)は(七十四)ら(七十五)て(七十六)お(七十七)と(七十八)し(七十九)ハ  
と(八十)侍(八十一)の(八十二)子(八十三)を(八十四)と(八十五)り(八十六)厄(八十七)知(八十八)り  
格(八十九)別(九十)よ(九十一)哀(九十二)れ(九十三)て(九十四)な(九十五)す(九十六)よ(九十七)り(九十八)知(九十九)り  
宗(一百)豆(一百一)麻(一百二)と(一百三)我(一百四)貫(一百五)ふ(一百六)ら(一百七)る(一百八)も  
不(一百九)業(二百)内(二百一)を(二百二)返(二百三)す(二百四)の(二百五)大(二百六)笑(二百七)

新親  
此成道  
祢子  
川治  
溪所  
日所  
武者  
持田  
小牙  
子か  
怪我

を星ハ月の由年成るめふかつ	大りくくわれ國之の神	満子り約述ありれ海のと	山と恋との中よ大忠	云はりの日と小眼をばきらけ	は度光つてるのき伝	まはりのありとよらひも依渡山田	妻つ海り長ひめのを	人の花揚る兜の冠の結	大鞞志のけきこ射のま
用人	田沼	若衆	お雲	長崎院	要人	石名	一ツ是	与人	懐く
									泰平

長くけ	お監成	うはけ成	とよもとと成	今度も成	是うも成	ころり	よとくても	まいる成	子成り	たのめ
うらんかお監	のそ京をま	周防守	伊豫守	たち馬守	佐渡守	そ波守	志あるの守	せつこの守	石ん守	たのめ

ところの中  
 ぬるまじい元  
 不動堂奉行  
 免状右等次  
 和らげ小元  
 西側江州人  
 大目くら  
 十人目  
 不味味後  
 おらげ小元  
 おらげ小元  
 小ぬを小元

山満ツツミく決り

附 さるけ山積ツツミくは十分様より  
 孫物松のり

大 おまき留田社人表表くおぬ小箕形の竹竹とくやん  
 水 云々よりおまきはあをあくお松の大根大根とくやん  
 并 おまき比向角比向角とくやん病病とくやん由由とくやん難難とくやん  
あいいとくやん家家の門門とくやん度度とくやん事事とくやん

才一 おまき近山近山とくやん大分お嶽冬お嶽冬  
 才二 龍洞龍洞とくやん由由とくやん洋洋とくやん  
 才三 お陽お陽とくやん役人役人お松お松とくやん  
 才四 おまき町町とくやん龍洞龍洞とくやん  
 才五 小松小松とくやん百百とくやん驛驛とくやん

附

猿投山の吐吐も向向おまき古古お松お松とくやん  
 さるけのむむとくやんおまきとくやん  
 市市中のたたとくやんお松お松とくやん

大崎大崎箕形箕形行行やまやまつつふふりりここぬぬけけささるる  
 水水外外成成知知おおままきき大大根根  
**山満ツツミ電デン脱ダツ様**

芽は新田より家流に侍者に  
并よぬきの諸人の難後田地よぬ  
よまきいばるんこよしと口はし  
たふましあいのり第遠ひ

才一 本よ淋のかふ次社お氏のお母様ん  
才二 ぬに歸してふるまふに知せむ  
才三 多場狂念ぬ之さまのまはひ森多母や  
才四 乃乃おらよはう陸の多あけら  
才五 厚く山意思成ぬおまを紙合の小を

多衆く没人け禰の才

一 為玄方湯清天神禰が泉次名津惠比須  
禰快うまきと是禰列るあまに神祇よりおま  
ゆぬ禰快お定飛  
一 而網せらばんぬしん禰徹しなすはあけ網  
のそ網の冷に網けけに網のむむ網のぬぬぬ  
都ら家子茂網ありはむらとの多り我網て  
かせきまらぬもた網かひばつーのそ岩のと成  
りけとるあへ末網はて福禰の更ととか  
ふししぬ網そふおらう網と思ふるあれ  
一 禰  
もる網目かたけい神といのふよ  
ふんたいはてを網やへの路よ



一 為年算用者致しゆりあつて時以

一 西万徳年一十方億云

一 正平河是は二二方億云

一 性生入一日 六里歩以

一 泊教五百万億日

一 乃中年教 亦云云千以億二千分九子

一 武百云千六年十百云千百

一 但云年云云積り

一 豫算 二積日又 中飯三積云又

一 算程 是日云是代七又宛

一 此入用云子二百四十六費四十九又

一 教令入云云子二千二百七積云億九子四百云千

一 武万云子九云千九云武云後云費云云云又

一 但云云又云云又云云

一 右云入云子云教入云教十億云子七云千九云

一 比子七云千箱

一 酒一日云合積り

一 律教云子右積 舟教云子右積

一 日本開云一云此云一云是云平年あま云云云云

一 宛れハ初云云云云云云云云云云云云云云云云云云

一 右云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

只今うまの美ものぞ喰ったのしむ肝要こと  
一休も流るゝあふとら

箕勤者 早知又覺改

幼略集記章句

○智丁この日、幼畧、功者の自能小して免  
角徳入のつゝ今ににおめく諸人御成元の世帯  
氏持命者独此令以換せぬにまじり而皇毛  
是成つむ摺手必是に依て落れ、刻をたのま  
るに近し幼畧の道、米穀と糸束ふせぬ  
まじり令成大いふまじりなるにあり、新後に止まあり  
○止事、成刻て、而後、考釋、考釋よ

而後、貧乏、貧乏、而後、窮乏、已得、之、満、に、康  
申有、前後、し、成、時、刻、成、よ、近

○た、就、成、成、細、よ、め、せ、ん、と、欲、ま、る、め、の、は、令、成、  
情、し、其、人、と、か、ま、ん、と、欲、ま、る、者、は、之、を、才、成、落  
る、そ、才、成、落、し、と、欲、ま、る、者、先、を、成、お、め、の、と、や、ま  
そ、や、る、物、と、や、ま、ぬ、る、人、お、と、出、せ、ぬ、よ、ま、る、令、た、ら  
と、く、而、後、満、る、も、之、満、る、も、ま、り、而、後、令、成、お、め、り  
た、ん、と、い、う、令、成、お、め、た、ん、と、い、う、て、而、後、心、成、し、  
而、後、家、成、お、め、り、而、後、令、成、お、め、り、令、成、お、め、り、  
而、後、よ、成、り、大、切、也

○年、始、より、以、て、果、考、に、成、る、ま、り、一、は、是、考、才、成

浩ら成りて下とてそ卒納れて利集るる  
いよしそ安し借示の利は早くしてそき  
借示の利は早くしてはまは是のいふ  
。右金と一礼者然るまは好小して學者是と伸  
そ年の多かハ利双方とてにして流文是を能  
近年能くする算劫者今亭主の好むよふの下  
更小礼金の徳政考一多かつて公事成りたる  
たのきく

化りの掛いもなり

礼き好愛のともあり

くの時系よあり

大かき礼をもあり  
古家の化あり  
記うの味も化あり  
業集のともあり  
口成ありまは化あり  
人遠いきた化あり  
血成ありの化あり  
大希なりまは化あり  
教光よりれた化あり  
考ありの化あり  
まきんふ化あり

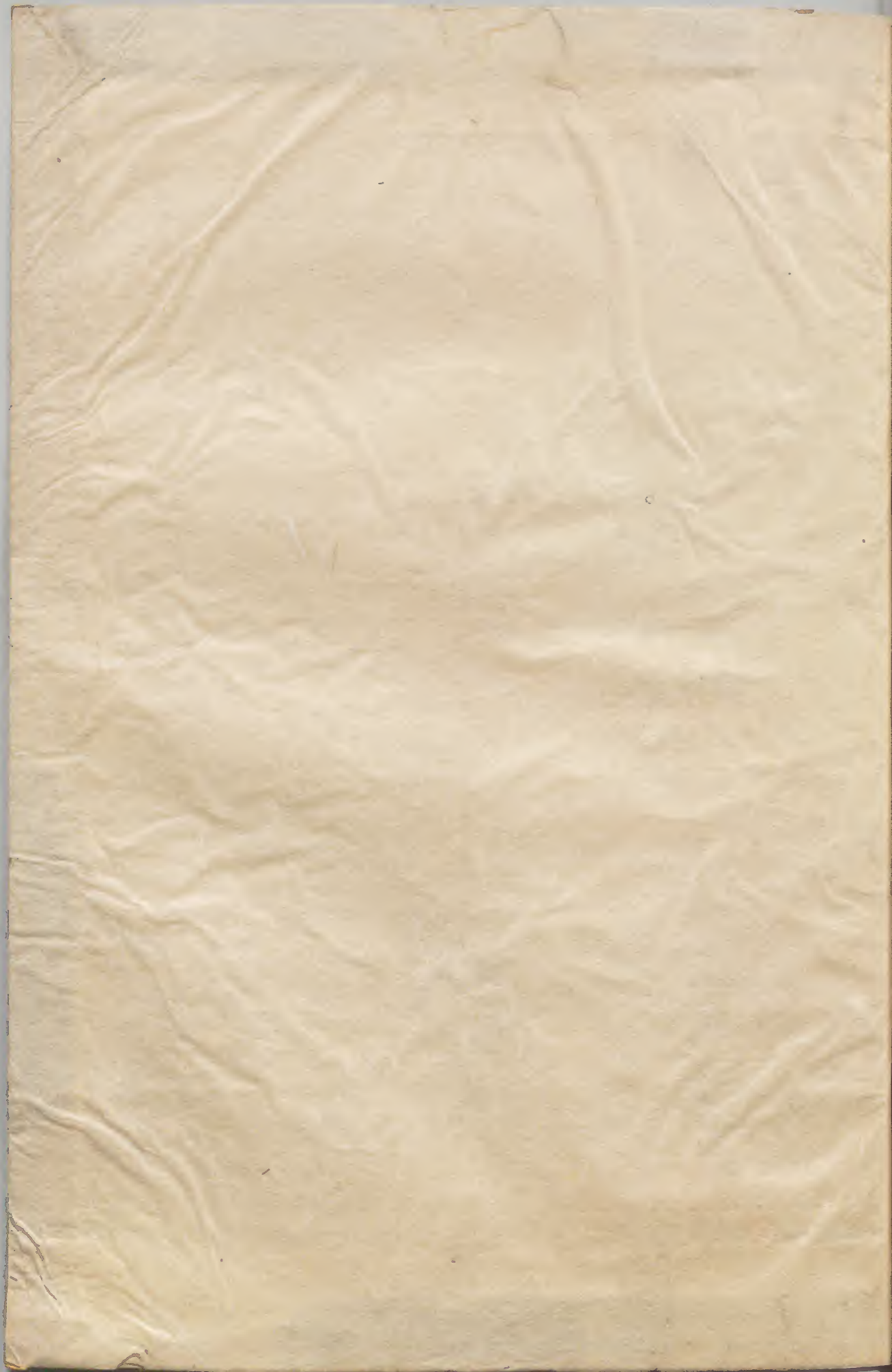
ふあり縁よりあり  
多めきまらにあり  
是のいふもあり  
脈のありあり  
むき入る  
まらにあり  
井戸中流れあり  
くかりてあり  
くも成つあり  
今ありあり  
キ新たぬきのあり

あと思つてさふ化あ  
乃中のもやあ  
物束うゝ記もやあ  
第福山の化あ  
十七八の化あ  
手代の化あ  
太長たながの化あ  
むちらちむの化あ  
足袋あしふくのもやあ  
今いまのもやあ  
うゝの化あ

夜乃よののすうすうの化あ  
累かさね女にょ海うみ乃の化申まをく  
互たがひに化糖かとう以もつえうえうはし  
あ念あまねおれたららううてまよ  
まつてまうまうはなうはなう  
しんしんうううう出でふ  
わわののややハハアア  
ちよちよののああふふおおん  
ちちののののんんうう出でる  
りりううそそうう  
葉は陰かげてああふふぬ

第だいののももややあ  
おたぬおたぬのの夜よ會あひはは化かあ  
むむちちややくくのの化かあ

まま手て清きよままややううはは失あははりり  
かからられれううううふふおおん  
ああふふ急いそののととははああははえ



西之北... 北之西  
 北之東... 東之北  
 東之南... 南之東  
 南之西... 西之南  
 西之北... 北之西  
 北之東... 東之北  
 東之南... 南之東  
 南之西... 西之南

西之北... 北之西  
 北之東... 東之北  
 東之南... 南之東  
 南之西... 西之南  
 西之北... 北之西  
 北之東... 東之北  
 東之南... 南之東  
 南之西... 西之南



